

オリエンタリズムとは何か

パレスティナ出身の思想家、サイードは、オリエンタリズムという考えかたを提唱した。西洋の文化は、多くを東洋起源のものなどに負っているにもかかわらず、近代の西洋は、東洋（オリエント）を劣ったものとみなし、文明化されておらず、エキゾチックな存在として描き出してきた。西洋は、このような「遅れた東洋」を自らの合わせ鏡として必要とし、自らを「西洋」として描き出してきたのである。

こうした知識のあり方は、西洋による東洋の植民地支配と、密接に結びついており、支配の一部をなしている。日本は、欧米から見れば後進的な「東洋」である。しかし近隣のアジア諸国に対しては、西洋が東洋に向ける意識と同じように、自分たちの植民地支配を正当化してきたという過去がある。

グローバル化する現代社会では、それぞれの文化を尊重しながら共生することができる相互理解の方法を見つける必要に迫られている。

多文化主義を考える

それぞれの文化を尊重しながら共生することができる相互理解の方法は、多文化主義と呼ばれている。日本にもいくつも、すでにエスニックタウンが成立している。

異なる他者と共存することは、異文化のステレオタイプの理解をやめ、決めつけを排除して、相手との差異や文化を認めることが必要となる。自分たちの文化だけが正しく、相手がそれまでの文化を捨てて、自分たちと同化するならば受け入れようとする自民族中心主義（エスノセントリズム）的な態度は改められなければならない。

多文化主義を考える際に、宗教も大きな問題となっている。日本社会は宗教に関してこだわりのないといわれており、近代化の過程で、日本人はキリスト教を1つの宗教として受け入れてきた。しかしこうした宗教に対するこだわりのなさは、宗教対立に関する無理解をも生みかねない。より開かれた社会に向けての努力が必要とされている。